

2016年3月15日

徳島文理大学 青野 透

この課題研究は、2014年5月30日に開催された大学教育学会理事会で選定され、研究期間は2014年6月～2017年5月です。学会ウェブページ掲載の中間報告では、研究の背景、研究メンバーおよび2014年9月までの成果に関して記載しています。今回は、それ以降の研究状況について報告します。

2014年11月30日、学会2014年度課題研究集会でシンポジウムを行った。報告者とテーマは、青野「発達障害学生支援をめぐる法制とその基本思想についてー本課題研究設定の必然性ー」、小川 勤「『合理的配慮』に対する基本的考え方と学内外組織の連携・協力について」、片岡 美華「障害学生支援において留意すべき点ーライフステージから見える課題」であり、橋場論と望月由起が指定討論を行った。詳細は、学会誌37巻1号70～85頁に掲載した。

2015年2月8日、「第2回発達障害学生への合理的配慮に関する研究会」を首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催した（非公開）。報告者とテーマは、青野「発達障害と受療支援・修学支援・キャリア支援ー坂本憲治「学生相談における発達障害者支援の研究動向と課題」『学生相談研究』35巻2号（2014年）を参考にー」、枝廣和憲「発達障害と就職支援・啓発活動・アセスメントー須田奈都実・高橋知音・上村恵津子・森光晃子「大学における発達障害学生支援の現状と課題」『心理臨床学研究』29巻5号（2011年）を参考にー」、岩田淳子（非会員：成蹊大学教授、日本学生相談学会常任理事（研究委員長））「発達障害学生支援の事例から」であった。これらの注目すべき先行研究の紹介と先進的支援事例の紹介にもとづき、参加者による議論を行った。

2015年6月7日、学会第37回大会でラウンドテーブルを行った。最初にクリッカーを用い、事例（日本学生支援機構発表）に対して合理的配慮に該当するか否かの意見を確認した。その後、山中淑江（立教大学）、大島啓利（広島修道大学）、岩田、村松健司（非会員：首都大学東京、日本学生相談学会会員）より事例報告があり、それらに基づく議論を行った。詳細は学会誌37巻2号91～95頁に掲載した。

2015年9月26日、「第3回発達障害学生への合理的配慮に関する研究会」を立教大学池袋キャンパス14号館で開催した（非公開）。報告者とテーマは、小川「発達障害学生に対する移行支援の基本的考え方ー学内外支援組織との連携・協力を中心にー」、青野「合理的配慮は事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないー政府基本方針の文言の意味ー」であり、質疑応答ののち、参加者の大学における発達障害学生支援の事例を中心に総合討論を行った。

2015年11月29日、学会2015年度課題研究集会でシンポジウムを行った。上記第3回研究会と同内容の、小川、青野の二つの報告に加え、石塚陽二（非会員：独立行政法人日本学生支援機構学生生活部障害学生支援課長）による「発達障害学生支援・配慮の申し出から対応に至るまでのプロセスー全国416高等教育機関の事例収集・分析からー」と吉武清實（東北大学）による「教育としての発達障害学生支援・配慮ー大学院の事例を交えてー」の報告があり、それに基づく意見交換を行った。

この間、定期刊行物『文部科学教育通信』（ジアース教育新社）に、研究メンバーによる「連載・発達障害学生への合理的配慮と大学教育」の掲載が続き、No.349（2014年10月13日号）における村松「発達障害とコミュニケーション」から、No.359（2015年3月9日号）における青野「中教審「高大接続・入試改革」答申における障害学生の新たな位置づけ」まで、6名11編の原稿が掲載されている。